

CAP研修 報告

主催:居場所サポーターズCoCoいる、対話カフェつむぎ

日時:2024年5月17日(金)19時~21時

場所:鶴瀬西交流センター

講師:くきCAP(増田知巳さん、ほか2名)

参加人数:19名

CoCoいる13名、対話カフェつむぎ3名(内2名はCoCoいると重複)、その他5名

研修内容:

・「くきCAP」の紹介

・CAP=Child Assault Prevention(子どもへの暴力の防止)

子どもたちが生まれながらにもっている「人権」を軸に、
寸劇を通して参加体験型で伝えていく暴力防止プログラム。

今回は「おとなワークショップ」。

「こどもワークショップ」だけの実施はできない。

・「暴力」とは...人の心とからだを傷つけること。

暴力の特徴:「圧倒的な力の不均衡」、連鎖、エスカレート

DVなど、暴力には繰り返すサイクルがある。そのサイクルは加害側が回している。

相手がいる暴力だけでなく、自分に向かう暴力(自傷行為、自死など)もある。

・「こどもワークショップ」(小学生プログラムの一部)の体験

「話を聞いていて『怖いな』と思ったら教えてください」

①「権利」について

「ご飯を食べること、トイレに行くこと」など、あたりまえのこと。

寝ること、遊ぶこと、など、私たちは色々な権利をもっている。

「安心」「自信」「自由」の権利。(ポーズつき)

安心...怖いこと、嫌なことがないこと

自信...心やからだがちよっと強くなったように感じる

自由...自分で選べたり決められたりすること

→他人から取られてしまうことがある。

②性被害にあった時のロールプレイ

「知ってる人から嫌な触りかたをされたとき、触れさせようとされたとき」

男の子でも性暴力の被害にあうことがある。

たかしくんと親戚のお兄さんがゲームをしているときに、お兄さんから。

たかしくんの気持ち:困っている。嫌がっている。

たかしくんの権利:安心、自信、自由が取り上げられている。

「二人だけの秘密。怖い秘密」:黙っていたらもっと怖くなる。

⇔「安心できる秘密」:ワクワクするけど怖くない。

信頼できる人に話してほしい。

でもその人が信じてくれなかったら.....他の人に話し続けることが大事。

信じてくれなくても話し続けることが大事。

話すことで、お兄さんを助けてくれる人も見つかるかも。

「いや」と言う。言ってもされるかもしれないけれど、何も悪くない。

・「子どもが権利の主体」

大人にはしないこと・気遣いを子どもにもするように考えてみる。

・権利を奪われたときに子どもたちが「できること」

「いや」言う、逃げる、相談する→これらは選択肢、選ぶのは子ども自身。

してもいいこと。しないこと、できないこともあるので、できなくても悪くない。

・大人ができること

子どもの人権を尊重し、人権意識が育つ手伝いをする。

子どもをエンパワメントする関わり。(例: 選べる機会を用意する)

「困った子」は「困っている子」という視点をもつ。

子どもの話を「聴く」。犬のように、キャッチャーのように。

「聴」(漢字から)→14の(色々な)心・気持ちを、耳と目・全身で。

・子どもの話の聴き方ガイドライン

「話してくれてありがとう」と伝える。

「あなたは悪くないよ」と繰り返し伝える。など

参加者同士、二人組で聴く練習。

・困ったときの相談窓口の紹介

所感:

参加者に配慮しながら、特に性暴力などデリケートな内容については、参加者の心理面についても気遣いながら講座を進めていただきました。特に「こどもワークショップ」については、わかりやすい、覚えやすい言葉と動作を使って話をしてくださったことで、一つひとつの内容がとても印象に残る講座でした。

(報告者: 山下真実)